学校安全年間計画

中央市立田富南小学校

				子仪:	女 王 牛	间可			十 入 川				
/	_	月	4	5	6	7•8	9	10	11	12	1	2	3
月の重点道で		点					けがをしないよう に運動しよう	乗り物の安全な 利用	災害に備えた生 活をしよう	安全な冬の生活 をしよう	災害から身を守ろ	1.	安全な生活をしよう
		徳	よりよい学校生活 集団生活の充実	礼儀・生命の尊さ	善悪の判断 自 律	親切 思いやり 勤労 公共の精神	規則の尊重	節度 節制	希望と勇気 努力と強い意志	国際理解 国際親善	友情·信頼	感謝	相互理解 寛容
	生	活		遊具施設の正しい			野外観察時の安 全指導	生き物に対する世 話の仕方	移植ごてやスコップの使い方	のりやはさみの使 い方		昔のおもちゃの遊 び方	はさみやカッター ナイフの使い方
安全	理		通安全 虫眼鏡や顕微鏡	炭素の特徴を知	しい使い方	方	顕微鏡の正しい 使い方	鏡、凸レンズ、遮 光プレートなどの 安全な使い方 台風による災害 について知る	カーなどの使い方 について	い使い方 塩酸・アンモニア	コンロや蒸発皿の		虫眼鏡などの正し い使い方
	<u>図</u>		い使い方	全な使い方	使い方	なつい買い方	ときの道具の使い	ニスの使い方	材料探しの際の 安全指導	意	正しい使い方	の正しい使い方	ステージバック作品の作製におけ
学	家		な使い方	な使い方 アイロンの使い方	な使い方 衣服の生活活動 上の働き		布切りばさみの使い方	ミシンの安全な使い方					
習	体	下 育	安全な体力テストの実施 運動場の安全確認	・器械運動時の安 全確認	跳躍運動時の安 全			跳び箱やマット運動の安全	固定施設の安全 な使い方	ボール運動時の 安全	スキー実習にお ける安全		ボール運動時の 安全
全 総合的な 学習の時間 探検・発見中央市(3年) 郷土料理を作ろう(4年) 米作りを体験(5年) 12歳の挑戦~職場見学~(6年)等 実施に関わり安全に関わる課題を位置づける													
		低学年	・右側通行・危険なところ・不審者から身を守	自転車の乗り方	・運動場での安全・室内での過ごし方	夏休みの生活 ・川で遊ぶとき ・花火の仕方 ・不審者から身を 守る	地震の話 ・逃げ道を知ろう ・地震が起きたら ・避難訓練	たのしい遠足 ・バスに乗るとき ・みんなで歩くとき	自動車の話 ・自動車のそば ・車の影からの飛びだし	冬休みの生活 ・危ない火遊び ・不審者から身を 守る	・安全施設の工夫	・冬の道路を歩く	サイレンを鳴らし た車 ・消防車 ・救急車
安 全	/山	中学年	・集団での登校	道路の渡り方 ・信号の役目 ・安全な渡り方	安全な自転車の 乗り方 ・自転車の乗り方	・水泳の事故・花火の仕方・不審者から身を	地震が起きたら・学習中の地震・避難の仕方	乗り物を利用する・バスの中のきま り	・運転手から見え ないところ	冬休みの生活 ・危ない火遊び ・不審者から身を 守る	おしゃべり歩きの危険横断歩道で	・廊下や室内での	安全を守る人たち・交通安全指導員さん・おまわりさん
指		高学年	・高学年の役割 ・不審者から身を	安全 ・学校のきまり	・乗るときのきまり ・交通ルール	・水泳の事故・いろいろな事故・不審者から身を守る	地震が起きたら ・地震について ・避難の仕方	ナー ・資格と安全	物 ・学校での事故	・消火の仕方 ・不審者から身を 守る	・危険な飛びだし ・雨と停止線		ざして ・自転車の発達と 交通
	児童	宣会活動	児童総会 歌の広場みなみ	歌の広場みなみ	縦割り給食会 歌の広場みなみ	歌の広場みなみ	み 歌の広場みなみ	歌の広場みなみ	歌の広場みなみ 縦割り給食会	歌の広場みなみ	歌の広場みなみ	児童集会 歌の広場みなみ	全校児童集会
	主な事等	学校行 等	入学式 健康診断 避難訓練(地震) 春の交通安全運動	引き渡し訓練		心肺蘇生法講習 会		修学旅行 就学時検診	避難訓練(火災)			6年生を送る会	卒業式
対		.管理	ついて	い方	な過ごし方 プールでの安全 なきまり	安全な自転車の 乗り方指導	全な行動につい て	全な乗降の仕方	全な行動について	な使い方	歩き方		1年間の人的管理 の評価
×	対物			安全点検	プールの点検		防災設備の点検	安全点検	安全点検 暖房器具の点検	安全点検	安全点検 防災設備の点検		1年間の安全点検 の評価
- 学校安全に関する 組織活動					OL大会における交 通安全指導		における教職員保					通学路の安全確 認	
	月	月道 安全学習 安全指導 の道 日 区 総学 学級活動 型 と 大物 の 日 は と は と の は と の と と と と と と と と <th< td=""><td> </td><td> P</td><td> 月 4 5 </td><td> 月の重点</td><td> 月の重点 通学路を正しく歩 安全に体み時間 楽しく安全に学校 自転車の安全な 乗り方を守ろう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守る 乗り方をする 乗り方をする 乗り方をする 乗り方をする 乗り方 乗り方をする 乗り方をする</td><td>月の重点 通学路を正し歩 安全に休み時間 表して安全に学校 自転車の安全な けがをしないよう を過ごそう 生活をすごそう 乗りかを守ろう は悪いよう 類別 別いり 類別 別いり 類別 別いり 要</td><td>月の里点 温学路を正しく歩 安全に休み時間 楽しく安全に学校 自転車の安全な けがをしないよう 未り物の安全な ではってきまりのできる。 当年の一部 自動 200 円 10</td><td>月の重点</td><td>月の重点</td><td> 月 4 5 5 7-8 9 10 11 12 1 12 1 12 1 12 1 1</td><td> 日の重点 通学的を担いく 安全に体み時間</td></th<>		P	月 4 5	月の重点	月の重点 通学路を正しく歩 安全に体み時間 楽しく安全に学校 自転車の安全な 乗り方を守ろう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守るう 乗り方を守る 乗り方をする 乗り方をする 乗り方をする 乗り方をする 乗り方 乗り方をする 乗り方をする	月の重点 通学路を正し歩 安全に休み時間 表して安全に学校 自転車の安全な けがをしないよう を過ごそう 生活をすごそう 乗りかを守ろう は悪いよう 類別 別いり 類別 別いり 類別 別いり 要	月の里点 温学路を正しく歩 安全に休み時間 楽しく安全に学校 自転車の安全な けがをしないよう 未り物の安全な ではってきまりのできる。 当年の一部 自動 200 円 10	月の重点	月の重点	月 4 5 5 7-8 9 10 11 12 1 12 1 12 1 12 1 1	日の重点 通学的を担いく 安全に体み時間

防災教育を中心とした学校安全計画

中央市立田富南小学校

安全に関する学校の現状等

- 〇学校は田園地帯に立地している。笛吹川と釜無川に挟まれた平地 にあり、巨大地震発生時には液状化現象の発生が予想され、地盤 は盤石であるとは言えない。
- 〇校舎は2階建で、平成26年度に大規模改修を実施。 緊急地震速報システムは設置されていない。
- 〇第二保育園が隣接されているが、防災に関して親密な連携は図られていない。

防災教育で身につけさせたい力

- 〇知識. 思孝・判断の領域
- 災害の現状・原因および防止方法について理解を深め, 地域の安全の課題について 的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。
- ○危険予想・行動の領域
 - 地域に潜む様々な危険を予想し、自他の安全に配慮して安全な行動をとる。
- ○社会への貢献の領域

自他の生命を大切にし、安全で安心な地域づくりの重要性が分かり、学校・家庭 及び地域の安全活動に進んで参加する。

◇学校防災教育目標◇

家庭・地域と連携した防災教育 ―自分の命は自分で守る(知識から行動へ)―

ア 知識、思考・判断

イ 危険予測・行動

ウ 社会への貢献

ねらい

- 〇ふるさとに愛着を持ち,災害発生時には適切に判断し, 主体的に行動できる児童の育成を図る。
- 〇学校での防災教育の成果を家庭・地域と共有し,かけがえのない生命を守るという視点で連携を図る。

年

間

指

導

計

画

5・6学年の目標

災害の原因や事故の防止につい て理解を深め、より適切な行動 を選択することができる。

5・6学年の目標

災害発生時に起こる危険を予測 し、進んで安全な行動ができる ようにする。さらに簡単な手当 てができるようにする。 5・6学年の目標

地域社会の防災活動に進ん で参加し、自分以外の人々 の安全にも気配りすること ができる。 内容

学習指導要領 各教科·領域 指導案

3・4学年の目標 災害の原因や事故の防止につい て理解し、安全な行動を考える 3・4学年の目標

災害発生時には、周囲の危険に 気づき、自ら安全な行動をとる ことができる。 3・4学年の目標

避難経路や避難場所がわかり、地域の人々と一緒に避 難ができる。 **内 容** ^{学習指導要領}

学習指導要領 各教科 · 領域 指導案

ことができる。

1・2学年の目標 約束を守り、安全に行動することの大切さがわかる。 1・2学年の目標

災害発生時には、自分の命を守るための適切な行動ができるようにする。

1・2学年の目標

家の中の危ないところを知り、家族といっしょに安全 点検や避難ができる。 内容

学習指導要領 各教科•領域 指導案

田富南小学校

地震防災マニュアル (家庭掲示用)

	/	震度	4以上で、少し大きめの	場合	震度5弱以上または注意情報・警戒宣言が発令された場合			
場所∙時間	帯	児童	保護者	(留意点)	児童	保護者	(留意点)	
家		・机やテーブルの下に入って足をしっかりつかみ,頭部を中心に全身を守る。・登校しない。・家族と共に行動する。	・机やテーブルの下に入って 足をしっかりつかみ, 頭部を中 心に全身を守る。 ・児童を家で保護する。必要 だと判断できる場合は児童と 共に1次避難所へ避難する。	・揺れが収まったら、状況に 応じて外へ出て、安全な広さ のある場所へ移動。普段から 近くの避難場所について確認 しておく。		心に全身を守る。	・揺れが収まったら、状況を 判断し、家から外へ出て安全 な広い場所へ移動する。普段 から近くの避難場所を確認し ておく。 ・近所同士で声をかけ合い、 1次避難所へ避難する。	
近所で、にいる場	外合	・近くにある広い場所(建物等が倒れてこないところ)へ避難する。 ・状況に応じて、1次避難所へ行く(建物へは入らない) ・学校に近い場合は、学校に行く。判断に迷う場合は、安全に気をつけて学校へ行く。	・児童が帰宅した場合は、児童を保護する。 ・児童を連れて1次避難所へ移動する。 ・学校からの連絡(メール等)を待ち、必要に応じて学校に避難した児童を引き取る。	・近くの広い場所を探し、周りの建物等が倒れても安全な場へ避難する。 ・状況が落ち着くまではあわてて家に戻ったり、中に入ったりしない。 ・1次避難所を確認しておく。	・頭部を守りながら,建物や塀,電柱などから離れた場所や広い場所に避難する。 ・揺れがおさまったら,学校又は1次避難所へ移動する。 ・判断に迷った場合は,学校に行くか,近くの大人に相談する。	・自分の身を守る。安全な広い場所へ避難する。 ・状況に応じ,徒歩で通学路を通って学校に行き,児童を引き取る。 ・自宅又は通学路上で児童を保護する。(児童が帰宅に使う道を,普段から確認しておく。通学路が危険で通れない場合も考えておく)	・揺れが収まったら,近くの 周りの建物等が倒れても安全 な場所へ避難する。 ・関係機関の指示に従い,1 次避難所へ避難する。状況が 落ちつき,安全が確認される までは家に戻ったり,中に 入ったりしない。 ・状況に応じて2次避難所へ 移動する。 ・1次避難所及び2次避難所 の場所を確認しておく。	
職場(学 校)にいる 場合		・先生の指示に従い,校庭 等の広くて安全な場所へ 避難する。 ・状況に応じて,教師付き 添いで集団下校を行う。	・学校からの連絡(メール等) を受け、学校にいる児童を必 要に応じて引き取る。 ・集団下校で帰宅した児童を 保護する。	・学校への確認の電話は極力 避ける。 ・下校する家にだれもいない 場合の対応を,話し合ってお く。 ・児童館,塾や習い事をして いる時の対応についても家族 で話し合っておく。	避難する。 ・保護者が引き取りにくる まで、校庭等の安全な場	・学校にいる児童を自主的に引き取りに来る。その際には, 引き取りに来る。(引取の徒歩を原則とする。(引取の際の車の校内への乗り入れは原則として禁止する)	・個人でむやみに歩き回ることを避け、場所を移動は最小限とする。 ・普段から家族で落ちあう場所を決めておく。大きな被害が出た場合は、食料物資等の配布を考え、2次避難所が望ましい。 ・近所で声をかけあい。状況を把握する。必要に応じて助	

各地区 避難所

(必ず家族で 確認しておくこと)

	地区	1次避難所	2次避難所	地区	1次避難所	2次避難所
	西花輪第1	西花輪第1公民館前広場		藤巻	鈴鹿神社境内	
	西花輪第2	西花輪第2公民館前広場		釜無	釜無公民館前広場	
	山王第1		田富南小学校 	飛石	飛石チビッコ広場	田富南小学校
	山王第2	山王公民館広場		今福	今福公民館広場	四田用小子仪
.)	山王第3			今福新田	七面山広場	
	大田和	大田和諏訪神社境内		清川	清川公民館広場	